

＜大使からの活動報告(2015年7月)＞

2015年7月30日

在グアテマラ日本大使館

特命全権大使 川原英一



◆当国体操関係者とのスポーツ交流(訪日合宿)が実現

グアテマラからベガ体操選手とロドマン体操コーチのお二人が、日本体操協会のご尽力により、東京にある味の素ナショナルトレーニング・センターでの合宿のために御招待を頂きました。ベガ選手は、7月中旬にトロントで開催されたパ

ン・アメリカンゲーム(南北アメリカ大会)の床運動で金メダルを受賞されたばかりです。体操世界一の日本からの合宿招待は、同選手にとって、大変に励みとなることと思います。2020年の東京オリンピック開催に向けて、日本が各国とのスポーツ交流を促進しています。今回、大変に良い形で当国からの訪日招待が実現しました。

7月29日、ベガ体操選手とロドマン体操コーチに当大使館を訪問頂き、お話を伺いました。ベガ選手は8才から体操に関心を持って始めたこと、ロドマンコーチは15才から体操を始めたこと、当国に協力隊員として体操指導に派遣された方数名との出会いがあったこと、過去、東京での大会に審判として1度訪日したことがあると同じました。(左上:当地主要紙<Siglo21>による訪日関連報道記事)



◎当国若手オペラ歌手アンドレス・マロキン君の旅立ち



昨年暮れの日本大使館主催のナショナルデーや今年2月に開催された日本とグアテマラ外交樹立80周年オープニング行事などの際に、素晴らしいテノールの声で日グアテマラ両国国歌を独唱してもらったアンドレス・マロキン君が、今年8月から、いよいよ本場イタリアでのオペラ修行に旅立つことになり、7月12日、さよならコンサートが古都アンティグアであり、最後のステージを見させてもらいました。

アンドレス君は、これまでイツモ大学建築学科の学生兼オペラ歌手として当地で活躍していました。当方とは、1年半前、当地メキシコ大使館文化センターでのオペラ公演の際に初めて同人のリサイタルを聴き、大変に活躍が期待される若者として、注目しておりました。

これから本格的オペラ修行のため2-3年イタリアにとどまる予定だそうです。さよならコンサート

では、「フニクリ・フニクラ」や「キサス・キサス・キサス」といった日本人にもなじみのある曲や「セラウの月」など当地でも大変に人気のある曲も含め多くの曲が披露されました。

■当地駐在スペイン大使の離任式



15日、当国で4年あまり御活躍をされたレハレタ(M. Lejarreta)西大使の離任式(左写真)が外交団長バチカン大使公邸でありました。同大使は、かつて日本外務省の招待により訪日をされたことがあり、極めて親日的な大使です。当方ともよくおつきあいを頂いた方です。当国にはスペイン企業が100社以上進出しており、当国のビジネス環境・諸事情などについて定期的に意見交換をしておりました。



また、昨年秋の秋篠宮殿下・同妃殿下の当国訪問の準備にあたり、数度のスペイン王妃の当国訪問の際の当国側との調整についての豊富な経験を伺いました。また、今年5月25-26日に当国で開催された日本と中米ビジネス・フォーラムの開催準備過程で、今年4月、ラホイ西首相の当国訪問時に開催された西・中米各国とのサミットやビジネス・フォーラムを開催した際の経験などもお聞きし、参考にさせて頂いたことが

ありました。同大使は8月に帰国されます。

◆グアテマラ折紙協会会長との懇談

12日、サラビア折紙協会会長(左下写真:左側の方)と懇談する機会がありました。サラビアさんは、教員であった母上から折紙を習い、その後、独学で学んだ方で、数学者でもあります。現在、



デルバジェ大学工学部などで学生に数学を教えておられます。

同大学工学部の学生に計算をさせて折り紙で作成した174面体が、丁度出来たところで、サラビアさんからお持ち頂きました(左写真:真ん中)。

元日本文科省国費留学生であり、日本での技術研修を受けた方々の会(AGUABEJA)グレンダ・マルティネス会長からの依頼を受けて、サラビア会長が、テクパン市の小学校での算数教育の実態を最近調査したとのお話も伺いました。日本と当国教育省が共同作成した公立小学校用算数教科書(左横の写真)は、とても良い内容であると先生方に評価が高いのですが、他方、8万人いる小学校の先生方の中には、これまでの自分のやり方にこだわる方、使いたい教授方法について研修が必要となる方が



おられるとの話をお聞きしました。当方から、今後も当国の大学・教育省及び自治体が連携して、小学校教員のための研修活動を今後も継続していく必要があること、地域で活躍する協力隊員がいる場合は、隊員の参加もお願いしていることなどお話し申し上げました。

◎グアテマラ市関係者の訪問



14日、グアテマラ市長の代理として、同市のパイソ社会コミュニケーション部長(左写真の右端の方)、サバ(Sabbagh)儀典長(同左端の方)のお二方が大使館を訪問して頂き、懇談する機

会がありました。同市は今年イベロアメリカ文化都市に選ばれて、文化活動を積極的に実施しており、当館も日グアテマラ外交80周年関連の文化事業で協力してもらっております。今後の協力について当方から具体的提案を致しましたところ、喜んで協力したいとの即答がありました。

グアテマラ市の人口は約150万人ですが、市郊外から昼間にはさらに200万人が市内へ通勤しており、市民への公共サービスのみならず市民ではない人々へのインフラ整備が大変であることを伺いました。現在市の職員は6千5百名、市の財源の半分は国からの交付金、残りは、固定資産税、市民税、電気・水道など公共料金で賄われており、他方、市民税・固定資産税の支払いについては、不公平なところを是正中ですが、市の決定に反対する勢力もあり、困難な事情も伺うことができました。また、9月6日に予定される市長選挙についてお伺いしたところ、有権者は約80万人、有権者の投票率は毎回70%前後と、自治体首長選挙としては市民の関心が高いとのことでした。

■当国日本語成績優秀者が交流基金の訪日研修に参加

今年5月に当地で開催された日本語弁論大会の優勝者であるルドウィン・ガルシア君が当



館を訪問してくれました。当国サンカルロス国立大学でグラフィックデザインを学び、将来、漫画を通して、地方の教育機会に恵まれない子供達のために役に立ちたいとの希望をもっている若者でした。日本語成績優秀者として8月下旬に2週間、日本での研修に参加予定です。小さい時に、TV番組で日本のポケモンやドラゴンボールの漫画を見て、大変に興味をもった、高校3年生の時から、日本語を週2回程度、サンカルロス大学の日本語講座に参加し、同じ大学に入ってから継続して日本語を学習していたと語ってくれました。日本での滞在を大いに楽しんで下さいと激励を致しました。

■経団連(CACIF)ブラン国際部長らとの懇談

7月21日、ブラン経団連国際部長(写真右端の方)ともう一名の方の来訪がありました。ブラン



国際部長は、5月末に当地で開催された日本・中米ビジネス・フォーラムの経済界のパイプ役として活躍して頂いた方です。同フォーラムのフォローアップについて、今後、当国経済界としていかなる形で可能かを検討したいとの話があり、グアテマラ経済界、さらに中米地域経済界として、今後、できるフォローアップは何か、など内部検討予定であるとのことでした。また、我が国から当国への技術協力や経済

関係などのご質問があり、当方から現状をいろいろお話ししました。特に、小学校の子供達の算数能力向上プロジェクトについては大いに関心を示して頂きました。また、当方より、日グアテマラ外交80周年に因んだ文化行事を実施してきていること、当国のビジネス環境の整備には、以前から大いに関心があることなども申し上げました。

■ユニセフ事務所 JPO 職員の来訪



7 月上旬、当地ユニセフ事務所に日本政府の支援を受けて、これから 2 年間勤務予定の福田さん(写真左端の方)が、同事務所の籠島さんと一緒に挨拶に来られました。

福田さんは以前 JICA 協力隊員としてボリビアで青少年の啓発活動に従事して活躍された由、その後、国連ボランティアとして当国でも勤務しており、今回、日本政府支援による国連 JPO 職員として赴任しました。当館からの同事務所への JPO 派遣支援への感謝の言葉があり、当方からは、今後の活躍を大いに期待しています旨激励の声をお掛け致しました。(了)